



浪華帖假名卷下

特別
赤 2
6841
28



木2
6841
28

浪華帖假名卷下

無名氏

たよのうらみれれみまよしみるるまは
ふのこゝろあはめわのこゝろはまよわ
わのこゝろはまよわのこゝろはまよわ
ふのこゝろあはめわのこゝろはまよわ
わのこゝろはまよわのこゝろはまよわ
ふのこゝろあはめわのこゝろはまよわ



わのたもひのきまはみせはふこわ
 きあこぬのうられたあふひろいあ
 たるまともいなやまとあひら
 ちみまじいひらふさ
 まじつみれさあさうもにいあひ
 らよひのつよよすみあうさ

詠函

吾妹ふと赤裳裾之將染滌今日之露
 霏尔吾共所沾名

わをそこのあもれおをさうめん
 とくあつのはあまわしあわら
 あまかあえやまらたなひらたわ
 ああそんひらわらあひの
 あまあまのあねあまのあま
 左のあまわはあまのあま

わたりこゝろてしをもんほのさまのいしほし
わらししもあてしよ^言ふてありまて
朝入の流海東通女お之神通法西衣雖干絶不航
いさおまらあふやもなうらが念てと伊あ
ぬれきしうらささとかはるま
とがらあまてしと申よらあつしむいしお
さむしししあめいしよ
乃どのうぬよはあすらあまのいしあひれ
ひらまこいしよ—はまいあ地うてら

あまのいしけきえら—いしよは
いあ—えきほいうたよいしよ
けよのいあとたもひてしあ—あひまの
まよしあいしよ—あひま
うしよもらあまうしあうよよ
けよあちのいさあゆいしよ
わつたまのうられたあまのいしよ
よまてみし—はま—

遠有而雲居全而見妹家全早將を歩里^黒駒

あさかや見やまはたなえくつたや万
あさくもんひらわつるえむさや

何しむよのやあそのせいのたのまへ
つは子指りつがくもたちわん
わんはるくよきまもあなわよあよれ
きらたゆこわたあつもさくくらく

巖城の直越来益磯坪許ぬま乃瀨全
去まゆ侍

いしやまよしこらえまよせいうまよれ
ふね見れちまたにわれしそりん

春日野之浅茅之原全後居る其時交色を志
良苦者

うまのれあさくちつはくに共らまなや
よまるとまゆくわいふらくま

仁者乃崖企向有溪溪鳴所於登君平不
日者無

まふよーよきーしむじつろあしちま
あふとまふをいぬいしなみ

あーあまのあまーしんまーし
のえんたもあまーしんまーし

わあわらよたしよたろんめあは
こよぶいみせんすんあーしん

わあわらよたしよたろんめあは

あまのあまーしんまーし

わあわらよたしよたろんめあは

あまのあまーしんまーし

わあわらよたしよたろんめあは

あまのあまーしんまーし

わあわらよたしよたろんめあは

あまのあまーしんまーし

うゝいそめしうゝいそめし
わろくそみたちいそめいそめしと
しそくぬのち能柳もるゝいそめい
くたまるゝしそめいそめい

百穢城大宮人之邊有垂柳也雖身不能鴨
そくしよのちみちあまのめし
まへり柳もみとあまのめし
んめいそめいあまのめい

のち能しちよちよち

櫻花時者雖不見人之感感常々々ゆ落

はくしちよちよちよちよちよちよち
のちよちよちよちよちよちよち
そくしよのちよちよちよちよちよち
たらくぬのちよちよちよちよちよち
われよちよちよちよちよちよちよち

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

明日後者將行乃河之出古者田者悉也
丁有

なま〜らたれ〜ぬものもたもたあ〜ら
と〜も〜ぬ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

あま〜も〜ん〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は
新〜も〜あ〜こ〜の〜れ〜は〜は〜は〜は〜は

む〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
と〜の〜あ〜ま〜ま〜の〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

ゆ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

あ〜ま〜と〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も
う〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

新〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
と〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

ありまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふんおちたあふまのなるれ
おちまのれいけいひあまの
なよ新もとぬらまもいひて
おあまを新もいひあまの
まのいひていひていひて
いひていひていひていひて
いひていひていひていひて

あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて

あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて
あふまのこしきよしよりぬんまをいひて

海原乃由多氣伎見都者為く流
なよ波なき波信ぬ信久於も保由

ぬよけつたにみふねおろほさやあね
さいまはらうぬいもははたかに

さくららはまらまらあたらあねまはの
うみおしとらるるあまらうらまら

ああつちのうらまらあつてまとも
新はらうらあまらうてゆわわ

ちうらまらまらまらまらまらまら
うらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまら
てわらまらまらまらまらまら

者乃らあ乃うみ能奈岐佐子多奈
緋若比多志彦もあ伎よ阿母あもあ母
はのらうらうみれあよあまらあ
ひらららららららららららら

わららららららららららららら

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with a treble clef and a key signature of one flat. The notation includes various rhythmic values and rests, with some notes beamed together. The handwriting is in a cursive style.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with a treble clef and a key signature of one flat. The notation includes various rhythmic values and rests, with some notes beamed together. The handwriting is in a cursive style.

こもりまはさるんさるすぢれ
たわひふたすしあん
いろのかえつまたちまたあつめとわ
うはひあしあつし
あきれんとしあもむほあけゆけ
さかのもはむえたのしあ
あきれまはあつたあつめ
あきれまはあつたあつめ

衆頼晚興林頂老群源暮町谷心寒 林齊多山

新のふとてはなとそしあ

あはあつものすにああけ

あはあつものすにああけ

あはあつものすにああけ

あはあつものすにああけ

あはあつものすにああけ 魚威

日脚波平孤鳴暮風吹岸遠客帆寒

佐清

東山こゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

まのこゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

こゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

多くうらやまのこゝに新秋のこゝに地

朝候日高冠額披夜行沙厚履穿忙聖分

こゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

我をこゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

こゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

こゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

緑草如金麀鹿苑紅葉定昔曾賦家若山

物亦乃のこゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

折のこゝに暮のこゝに新秋のこゝに地

白晚簾以生白露於宵床底見青天

業としりくあはるるをの神しあはる
月のしりくをさるはぬまを

中しりくをさる東に申るあ 四葉のよめ

と長あはるやといき(あ)の程

いよしあはるるあはるるあはるるあはるる

いよはるるあはるるあはるる

己終末習千年役償得難逢一糸文 係流

こころあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるる

係流
係流

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

鶴閑翅刷千年雪僧老眉垂八字霜 意

さうらうさうらうなふり礼さうらうさうらう

乃我がうらうらうさうらうすけあめめ 奥作

年乃中さうらうさうらうのからうらうらうさうらう

抄曲いのさうらうらうらうらう

さうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

は 我らうらうらうらうらうらうらう

納涼

あつ

かほりんたぬら

いはれしすは

あつらうらう

本集巻末の良年

七夕

あはれ乃の夏也

わさる

ふらふら多きよ

いふねる

かき

梅女乃の夏

あはれ乃の秋の舞

あはれ

あはれ乃の夏

あはれ乃の夏

あはれ

あはれ乃の夏

あはれ乃の夏

一母よまゝにわらへり

はなはた

月十の夜

街門

町町の夜半にわらへり

と夜半に

秋の夜半にわらへり

まじりて来り

之代歌詞能く出極多座来新
詠之外未見其下名姓者余
好古字跡一得之宗旨極硬黄
符不必叙一と云ふ也但持其

心麗姍姍風波可少安體裁
可法志了了々々奇粹
世後者輩一正焉
文政三年九月

竹宮春川世黃識

